



マジック世界大会での優勝経験を持つ



フィリピンで医者とマジシャンの二刀流で活躍

Magicが繋ぐ 夢の架け橋

医療法人永和会 末永病院 理事長
伊藤 実喜

3浪して福大医学部卒、内科入局後、大学院4年目（1986年）の時、たまたまデパートのマジック実演を見たことがきっかけでした。毎日電頭で免疫組織の研究で気が落ち込んでいた際にマジックの不思議な現象に圧倒され、ストレス解消には最適と確信し、早速マジック教室に通いました。

ネタを知らば、医学の研究と全く同じ論理的であることも判明して、マジックの資料集めとマジックコンテストへの挑戦がスタートし、5年目にはアマチュア全国大会で3位、7年目には第60回PCAM奇術世界大会（1993年カナダ）で優勝して、プロの日本奇術協会に特別に賛助会員として入会させて頂き、その時に【芸名 Dr. Magic】が誕生しました。それまで、マジックの活動はほとんど福大病院の同僚には内緒でしたが、優勝の新聞記事の影響で、学会会場や講演会でのDr. Magic showが開催され、医療にマジックをミックスした診療が実践されていきます。

そうした中、たまたま叔父がフィリピンのレイテ島で医療ボランティア活動を行っていた縁で、2000年から私も医者とマジシャンとの二刀流でNGOを手伝うことになりました。フィリピンや台湾やタイなどの海外でのオフアアが多く、海外の多くのマジック仲間と医療仲間との交流が始まります。2002年には中国で第1回上海マジック大会にゲスト出演、

2006年にはフィリピンマラカニアン宮殿でチャリティーマジックショーを開催し、2008年には台湾總統から感謝状も頂きました。その後は毎年、フィリピン貧困地区で無料のMedical Mission と Dr. Magic show を開催し続けております（今まで50カ所、延べ5万人）。2019年からはフィリピンの刑務所からもオフアアがあります。

4年前にNPO日本フィリピン夢の架け橋を設立し、昨年はフィリピンのマニラに小さな診療所（フィリピンはまだ貧困地区が多く、野菜の摂取量も少なく、安いタイ米が主な主食で、コーラや甘いケーキなどの糖質の摂取量が多く、糖尿病が急増中なので、予防医学の拠点としての小さなクリニック）を開設しました。さらに貧困地区への医療ボランティア活動を継続、優秀な人材を教育し日本に派遣して、日本とフィリピンの夢の架け橋になればと願っております。

私にとって、Magic は国際交流の架け橋になりました。詳しくはdr-magic.com まで（ドクターマジックで検索してください）。

伊藤実喜 (いとうみよし)

福岡県立修猷館高卒、福大医学部大学院卒。福大病院第一内科、福岡リハビリ病院副院長を経て、末永病院理事長。医学博士、糖尿病指導医、温泉療法専門医、日本旅行医学認定医。日本再生医療学会、久山療育園施設長、医療法人雅紀会さくら園園長、フィリピンSTC international medical clinic (マニラ) 開設。04年社会文化功労賞、日本奇術協会賛助会員。